

で、長さ四・九^{センチ}メートル、幅三・九^{センチ}メートル、厚さ二・四^{センチ}メートルである。2・3はフレイクである。

長養池遺跡

当遺跡は、豊津丘陵が北方で幾つかに分かれる小支丘のうち、甲塚^{かまづか}から八景山に延びる支丘と国分から長養に延びる支丘の付け根付近に位置する。遺跡は長養池の西岸中央部に突き出た突出部の岸にあり、標高は約三三^{メートル}である。

遺物は表面採集によって発見されたナイフ形石器が一点のみである(第4図5)。この石器は黒曜石の縦長剥片を素材として、打面部と剝離末端部、一方の側縁部の三面に刃潰^{つよ}しを施す。刃部は剥片の鋭い縁辺を利用して、やや斜めに作りだす。大きさは長さ二・〇^{センチ}メートル、幅一・三^{センチ}メートルと小さく、厚さは〇・七^{センチ}メートルである。全体の形態は台形様石器に似ており、ナイフ形石器文化のなかでも終末期的様相を示すものである。

第三節 豊前地方の旧石器時代

北九州市域を含めて、京築地域・宇佐地域のいわゆる豊前地方では、現在までに三〇以上の旧石器時代の遺跡が発見されている(第4図参照)。これらの遺跡の多くは、洪積台地や丘陵上に位置する。発見されている石器はすべて旧石器時代後期に属し、ナイフ形石器や剥片尖頭器・台形石器・細石刃などである。

約二万〜一万二〇〇年前のこの時期には、瀬戸内海西部の周防灘は大部分が陸地であった。当地方は気候的に現在の北海道南部辺りに相当したと推定され、平野部では冷温帯落葉広葉樹林に、山間部では針葉樹

第1章 旧石器時代



第4図 豊前地方の旧石器時代の主要遺跡

第2表 豊前地方の旧石器時代遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	出土遺物
1	長行遺跡	北九州市小倉南区長行	細石刃核
2	砥石山遺跡	北九州市小倉南区北方	剥片尖頭器・スクレイパー
3	菊水町遺跡	北九州市小倉南区横代	国府型ナイフ形石器
4	長野A遺跡	北九州市小倉南区長野	台形様石器
5	平尾台遺跡	北九州市小倉南区新道寺	細石核・細石刃・台形様石器
6	富久遺跡	京都郡苅田町大字富久1丁目	ナイフ形石器
7	新津原山古墳群	京都郡苅田町大字新津	ナイフ形石器・剥片
8	石並遺跡	行橋市大字稲童	台形様石器・ナイフ形石器・石核・剥片
9	鬼熊遺跡	行橋市南泉5丁目	ナイフ形石器・石核
10	徳永川ノ上遺跡	京都郡豊津町大字徳永	ナイフ形石器・細石刃
11	鋤先遺跡	京都郡豊津町大字徳永	舟底形石核・フレイク
12	長養池遺跡	京都郡豊津町大字豊津	ナイフ形石器
13	十双遺跡	築上郡築城町大字安武	尖頭器
14	後谷池遺跡	築上郡椎田町大字奈古	ナイフ形石器
15	出口遺跡	築上郡椎田町大字上り松	細石核
16	青畑向原遺跡	豊前市大字青畑	ナイフ形石器・剥片尖頭器・スクレイパー・細石刃
17	小石原泉遺跡	豊前市大字小石原・四郎丸	三稜尖頭器・細石核
18	池田池畔	築上郡大平村大字百留	船野型細石刃核
19	にぎり池畔	築上郡大平村大字下唐原	ナイフ形石器
20	摩松池畔	築上郡大平村大字下唐原	細石刃核
21	桑野遺跡	築上郡大平村大字下唐原字桑野	ナイフ形石器
22	上の熊遺跡	築上郡大平村大字下唐原字上の熊	ナイフ形石器
23	金居塚遺跡	築上郡大平村大字下唐原字金居塚	ナイフ形石器
24	大坪遺跡	大分県中津市加来	三稜尖頭器・ナイフ形石器
25	才木遺跡	大分県中津市伊藤田	剥片
26	小倉池遺跡	大分県宇佐市下元重	尖頭器
27	向山遺跡	大分県宇佐市下元重	ナイフ形石器
28	台ノ原遺跡	大分県宇佐市台ノ原	台形様石器・ナイフ形石器・スクレイパー
29	四日市遺跡	大分県宇佐市四日市	細石刃核
30	野口遺跡	大分県宇佐市東上田	ナイフ形石器

第1章 旧石器時代

林に覆われていたと考えられる。

宇佐・中津 地域の遺跡 宇佐平野から山国川下流域にかけての地域では、現在のところ一〇か所

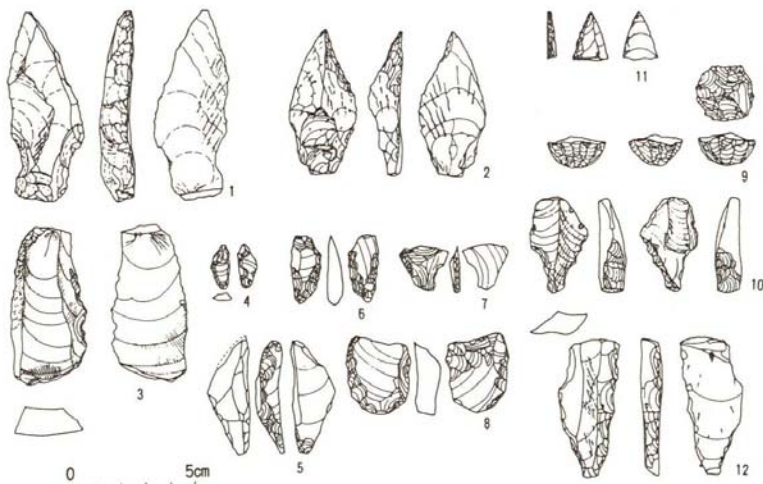
程度と比較的多くの遺跡が知られている。中津市大坪遺跡からは現存長さ五・二メートル、幅約一・八メートルの安山岩製三稜尖頭器と長さ二・九メートル、幅約一・〇メートルのチャート製ナイフ形石器が出土している。また、宇佐市四日市遺跡からは細石刃核が発見されている。

このほか、宇佐市御幡遺跡・野口遺跡・台ノ原遺跡・向山遺跡・小倉池遺跡おぐらのいけ・西和田貝塚、中津市才木遺跡などからナイフ形石器・剝片尖頭器・台形石器などが出土している（第5図）。

京築地域の遺跡

当地域では、先の豊津町徳永川ノ上遺跡や長養池遺跡のほかに、

椎田町原池から黒曜石製の舟底形細石刃核が発見されている。大きさは長さ二・八メートル、幅一・九メートル、



第5図 宇佐地域出土の旧石器

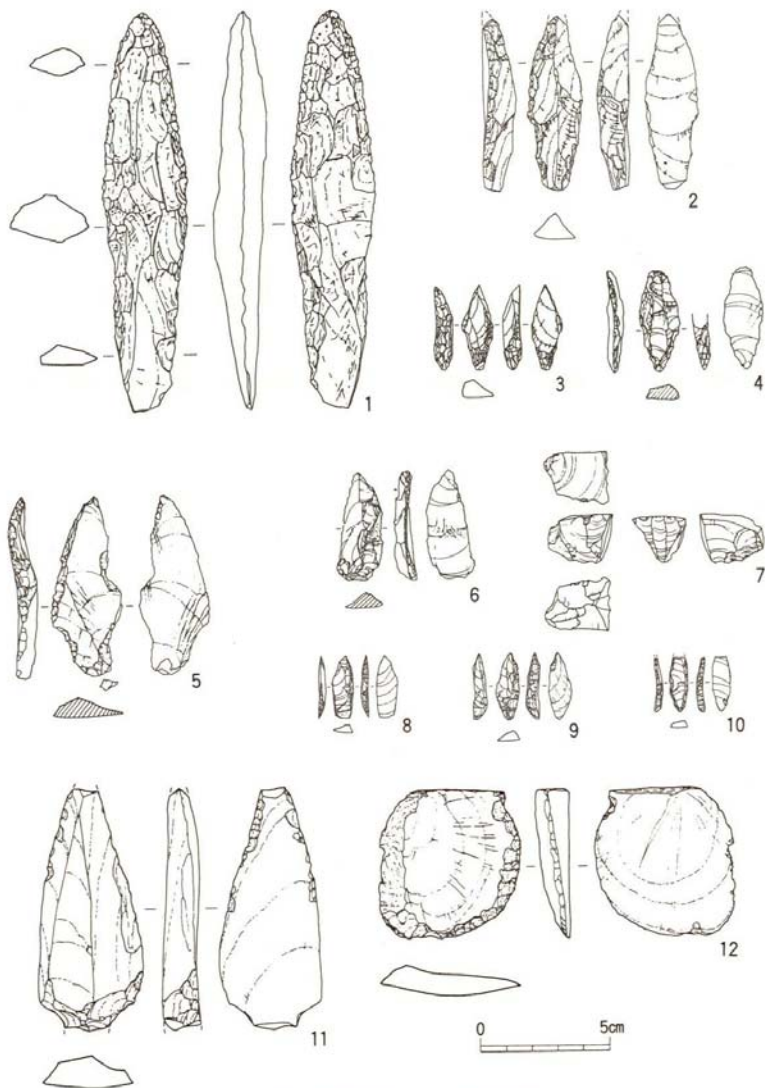
1～4 小倉池遺跡 5 向山遺跡 6～8 台ノ原遺跡 9 四日市遺跡
10 御幡遺跡 11 野口遺跡 12 西和田貝塚 (『大分県史』より)

厚さ一・五センチメートルである。築城町安武の十双遺跡から出土した安山岩製の石器は、長さ一六・三センチメートル、幅三・四センチメートル、厚さ二一・〇センチメートルを計り、尖頭器の可能性がある(第6図1)。豊前市青畑向原遺跡からは黒曜石製および水晶(?)製のナイフ形石器と剝片尖頭器・スクレイパーなどが出土している。第6図8は伊万里湾産黒曜石製のナイフ形石器で、長さ二・四二センチメートル、幅〇・八七センチメートル、厚さ〇・二七センチメートルである。11は安山岩ないし流紋岩製の剝片尖頭器で、残存長九・四センチメートル、幅四・一センチメートル、厚さ二一・八センチメートルである。荇田町富久遺跡から出土した安山岩製のナイフ形石器は、長さ七・四センチメートル、幅二・二二センチメートルの断面三角形をなす製品である(第6図2)。

これら以外にも第6図に示すとおり、大平村のにごり池畔から大分県姫島産黒曜石製のナイフ形石器(3)、同池田池畔から変成岩製の船野型細石刃核(7)、同桑野遺跡から変成岩製のナイフ形石器(4)、同上の熊遺跡から安山岩製のナイフ形石器(5)、同金居塚遺跡から珪化木製かと思われるナイフ形石器(6)、同萱場遺跡からも安山岩または玄武岩製の打製石斧などが出土している。豊前市では小石原泉遺跡で細石核と尖頭器が出土している。行橋市では鬼熊遺跡からチャート製のナイフ形石器一点と石核二点が出土しており、荇田町新津原山古墳群からも旧石器時代に属すると考えられるナイフ形石器や剝片数点が出土している。

また、荇田町青龍窟は、カルスト台地平尾台の石灰岩地帯に形成された鍾乳洞であるが、内部からステゴドン(東洋象)やノウマンゾウ・オオツノジカ・イノシシなどの骨が出土しており、今後旧石器時代の遺構・遺物だけでなく、化石人骨が発見される可能性もある。

第1章 旧石器時代



第6図 京築地域出土の旧石器

- 1 十双遺跡 2 富久遺跡 3 にごり池畔 4 桑野遺跡 5 上の熊遺跡
6 金居塚遺跡 7 池田池畔 8~12 青畑向原遺跡 (『豊前市史考古資料』より)

北九州市域 北九州市域の東部、特に小倉南区で近年この時期の遺跡が幾つか発見されている。菊水町遺跡では、サヌカイト製の横長剥片を素材とした、いわゆる国府型ナイフ形石器が出土している。

また、長野A遺跡からは黒曜石製の台形様石器が出土している。更に、砥石山遺跡では黒曜石製の剥片尖頭器とスクレイパーが、長行遺跡では縄文時代の包含層から黒曜石製の細石刃核が出土している。平尾台遺跡からは水晶製の細石核一点、姫島産黒曜石製の細石刃二点、佐賀県腰岳産黒曜石製の細石刃五点、水晶製の細石刃一点と安山岩製の台形様石器一点が採集されている。なお、北九州市椎木山遺跡では二棟の住居跡が発見されており、平面形態が楕円形と変形五角形をなし、柱穴や炉を伴っている。しかし、住居の屋根などの上部構造については分かっていない。

第四節 北部九州の旧石器時代の遺跡

前期旧石器の遺跡

北部九州で前期旧石器に属するといわれる遺跡には、大分県日出町早水台遺跡・大分市丹生遺跡・福岡県瀬高町清水遺跡などがある。これらの遺跡からは礫核石器やチャップパーなどが出土しており、その形態的特徴から一〇万年前後までさかのぼると考えられている。しかし、石器のなかには、出土状況に疑問が残るものや、人工品ではなく自然作用のなかで偶然できた偽石器の可能性があるものもある。